

解 答

一

問一 エ

問二 戦地で空腹に耐えて頑張っている従兄の博兄ちゃんの苦労を思いながら、ぼくも必死になって高城山の坂道を登った。

問三 先生に作文をほめられたことはうれしいが、先生がほめてくれたのが、「つくりもの」をしたところだったので、素直に喜んでいいものかどうかわからなくてとまどう気持ち。

問四 A 問五 ウ 問六 イ 問七 ウ

問八 よく本を読んでいる 問九 ア・エ

問十 ハァちゃんが失敗をして気落ちしているのを、ジョークを言ってみんなで笑い飛ばし、元気づけてくれるところ。

問十一 a 参〔って〕 b 許可 c 身構〔えた〕

二

問一 a 発行 b 切実 c 間近 d 清潔

問二 小 問三 イ

問四 仕事やすまいを失って困っている人たちに対して、生活に役立つ情報をわかりやすく親身になって説明し、親しみやすい文体で紹介しているところ。

問五 ウ 問六 こわれた家

問七 家賃は 問八 ウ

問九 廃品の再生や、市街の清掃、夜間の見回り、新聞の販売などの仕事をするなかで、働く意欲や人間への信頼を取りもどし、社会復帰に備えること。

問十 助けることで助けられる

問十一 『大きな広場』はホームレスの人たちを助けるための新聞であり、それをさしだす娘さんの顔や着衣がホームレスの雰囲気を持っていたことから。

解 説

一

問一 「難を逃れる」＝災難からにげる、災いを遠ざける

問二 「こう書くと、先生がほめてくれる」と思いながら書いた作文というのは、今回先生が言った「見たまま、聞いたまま、感じたままをそのまま書く」作文ではなく、あとから「上手に書こうと思う」書き方のほうです。ハァちゃんは作文を書くときになって、先生にほめられるように、戦地で頑張っている従兄の博兄ちゃんのことを思って高城山に登ったと付け加えたというわけです。

問三 先生が作文に赤丸をたくさんつけてくれたことはうれしかったのですが、先生がほめて認めてくれたところは、例の後から上手に書くために付け加えたところでした。それは先生のいう「感じたまま」のよい作文ではなかったので、ハァちゃんは喜んでいいのかわからなくてとまどっているのです。

問四 「大きな犬に追いかけられた」の「られ」は、この文の主語にあたる誰かが、犬によって「追いかける」という行為を自分の身に受けたということです。これを「受身」といいます。Aの「ハァちゃんは先生に認められて」の「られ」がこれと同じです。Bは可能、C、Dは尊敬の意味があります。

問五 この場合「ほめられて嬉しいなどまったく感じないのだ」とあるので、直前にハァちゃんがほめられていると仮定して場所の見当をつけると、(ウ)の前でお父さんがハァちゃんの作文をほめていることがわかります。

問六 最初の空欄のある文の、次の文に「～この日ばかりは、お父さんの勢いに押されたのか、何の信号もないのである」とあり、厳格なお父さんの前で「神妙な顔」をして、かしこまっている兄弟の姿が想像できます。

問七 「要領よくやる奴は」というのは、先生の評価を得ようとする自分のことだと、ハァちゃんは思っています。「だいたい誠意がないな」のほうは、作文にうそをかいたことをあらわしています。

問八 ハァちゃんは厳格なお父さんから土曜日以外は教科書以外の本を読むのを禁止されています。しかしお母さんは「読書もいいことだと思っておられ、ハァちゃんの読書を応援したい」と考えていて、「日曜日にも読書をキョカしては、と陳情をされた」とあります。本を読むことが作文の力をつけたのだと読書の効用を訴えているのです。

問九 ハァちゃんは、まだ前日の夜のことを引きずっていたのです。うその作文のことで「兄さんたちが自分をばかにしているのではないか」と心配していましたし、要領よくやって、先生やお父さんの評価を得ている自分は嫌な奴だと思っているのです。

問十 ハァちゃんの失敗をからかったり、いじめたりするのではなく、ミト兄ちゃんがみんなで笑えるように冗談とし

てあつかってくれたことに、ハァちゃんは感謝しています。ハァちゃんの恥ずかしい気持ちも察して、みんなで笑いとばしてくれたようです。

二

問二 小春日和（こはるびより）＝晩秋から初冬にかけて、移動性高気圧に覆われた時などの穏やかな好天のこと。

問三 「明日にも我が身に起こりかねないセツジツな主題を、細密なインタビューや鋭い社会分析で問い詰める編集方針～」というところから、ボローニャの人々の生活（人間の社会生活自体）を心配していることがわかります。

問四 「この新聞の真価はじつは最終ページにありました」ということなので、最終ページについての記述の要点をまとめます。仕事や住まいを失ったとき、すぐに役立つ生活情報を親身になって説明していることと、その文体が明るく楽しく親しみやすいことの二つが大きな特長です。

問五 筆者は、マレッラ神父がドイツ軍の横暴から市民を守った話を聞いたあとで、また煉瓦の壁がすっかり凹むほど長い年月にわたって雨の日も風の日も献金集めのために苦勞した話を聞いて、マレッラ神父の行動や、その志に感動しています。

問六 「～ボローニャ中の廃品がすべてここに集まってくる」のですから、広い場所＝「大きな広場」が必要です。

問七 直前の「市役所が貸してくれている」、直後の「ただに決まっているじゃないか」の文脈から、値段（家賃）を尋ねていることが想像できます。

問八 Ⅲの後に、「みんなでわいわいやっているうちに、心がやわらかくなり、自分と外部との境がなくなる」とあり、これがホームレスの人の「自分と外部との間に厚いシャッターを下ろす」のを止め、「もう一度外部を信じようという気になる」と説明されています。芝居の稽古でみんなが「力をあわせる」ことが有用だということです。

問九 具体的にとあるので、「廃品の再生・市街の清掃・夜間の見回り・新聞の販売」という仕事の内容を書いた上で、その仕事を通して健康を取り戻し、働く意欲や人間への信頼の気持ちも取り戻して社会復帰に備えるということをもとめます。

問十 この文章の主題にあたる言葉です。ホームレスの人たちに仕事を与えることで、ボローニャ中の廃品を再生させ、市街のいたるところがきれいになり、そしてその仕事によってホームレスの人たちを立ち直らせるという好循環がうまれるわけです。「助けることで助けられる」いい言葉ですね。

問十一 波線部の前の「顔も着衣も全体になんとなく煤けています」から、筆者がその娘さんをホームレスかもしれないと思ったことがわかります。